

(4) 患者調査の結果概要

【調査対象等】

○患者調査

調査対象：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。
ただし、1施設につき最大4名の患者を対象とした。(4名の内訳は、65歳以上の男性・女性 各1名、65歳未満の男性・女性 各1名)

回答数：1717人

回答者：患者本人または家族

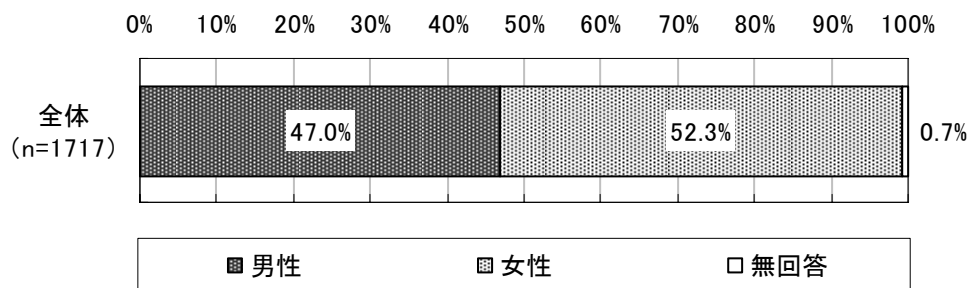
調査方法：調査対象薬局を通じて配布。回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収。

①回答者の属性

1) 性別

回答者の性別についてみると、「男性」が47.0%、「女性」が52.3%であった。

図表 94 性別

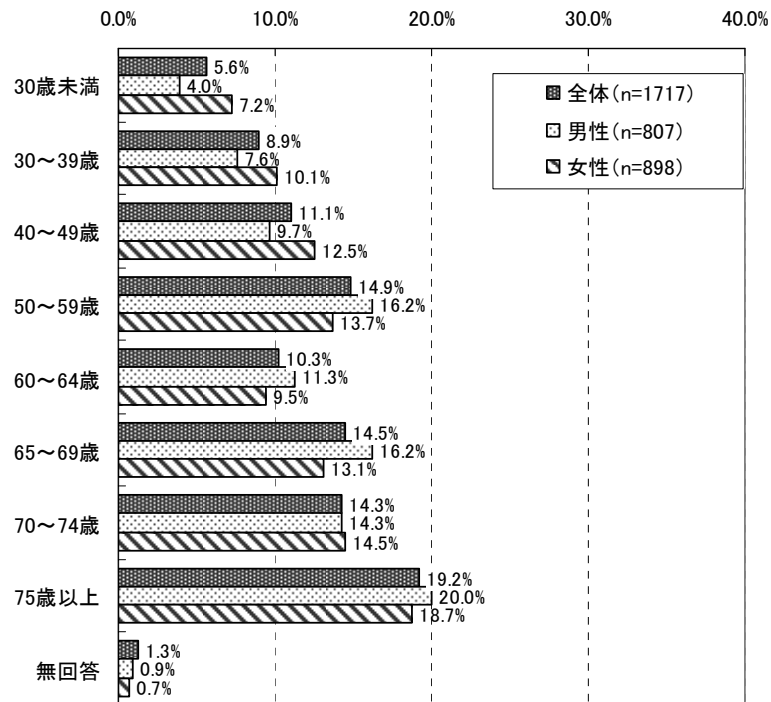


2) 年齢

回答者の年齢についてみると、全体では「75歳以上」（19.2%）が最も多く、次いで「50～59歳」（14.9%）、「65～69歳」（14.5%）となった。

年齢の平均は59.8歳（標準偏差16.9、中央値64.0）であった。

図表 95 男女別 年齢分布



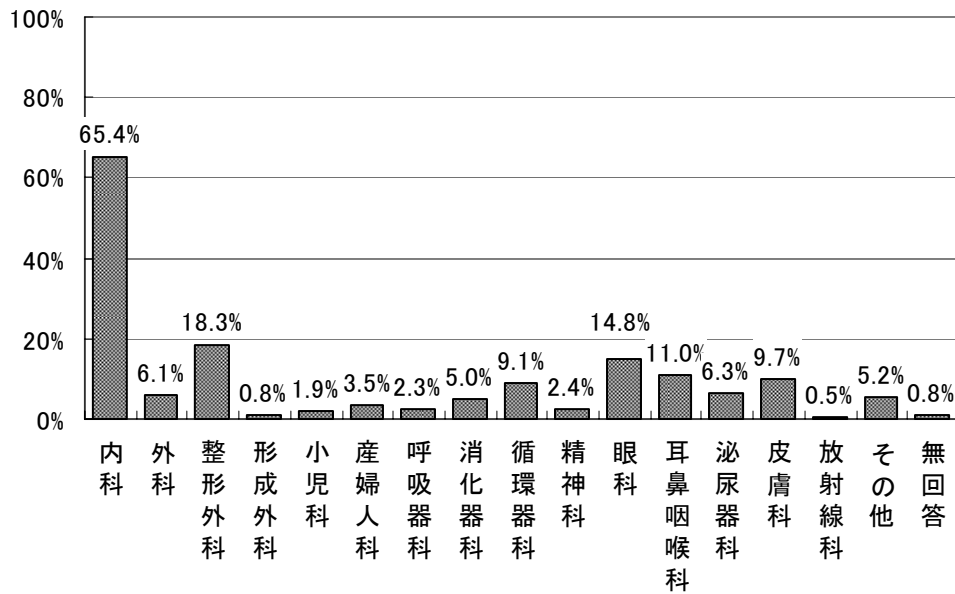
図表 96 平均年齢

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
年齢（歳）	59.8	16.9	97.0	0.0	64.0

3) 受診した診療科

受診した診療科についてみると、「内科」(65.4%)が最も多く、次いで「整形外科」(18.3%)、「眼科」(14.8%)、「耳鼻咽喉科」(11.0%)であった。

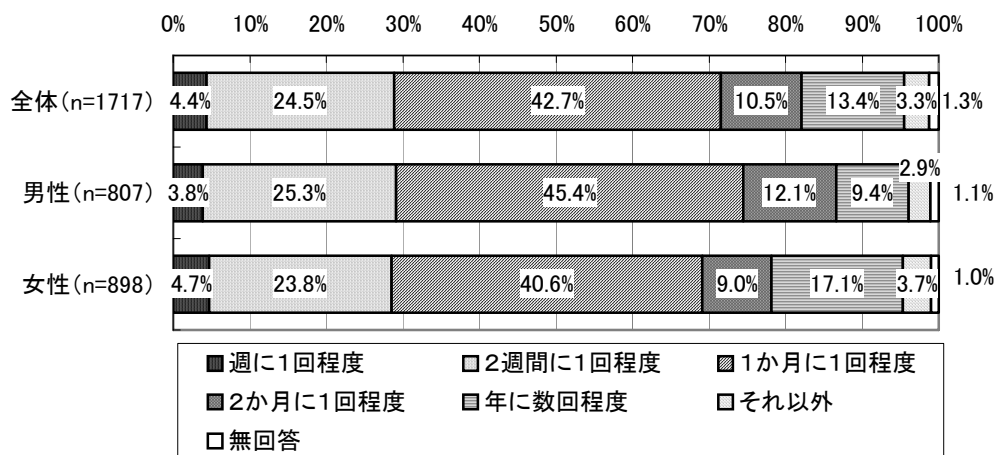
図表 97 受診した診療科 (複数回答、n=1717)



4) 薬局への来局頻度

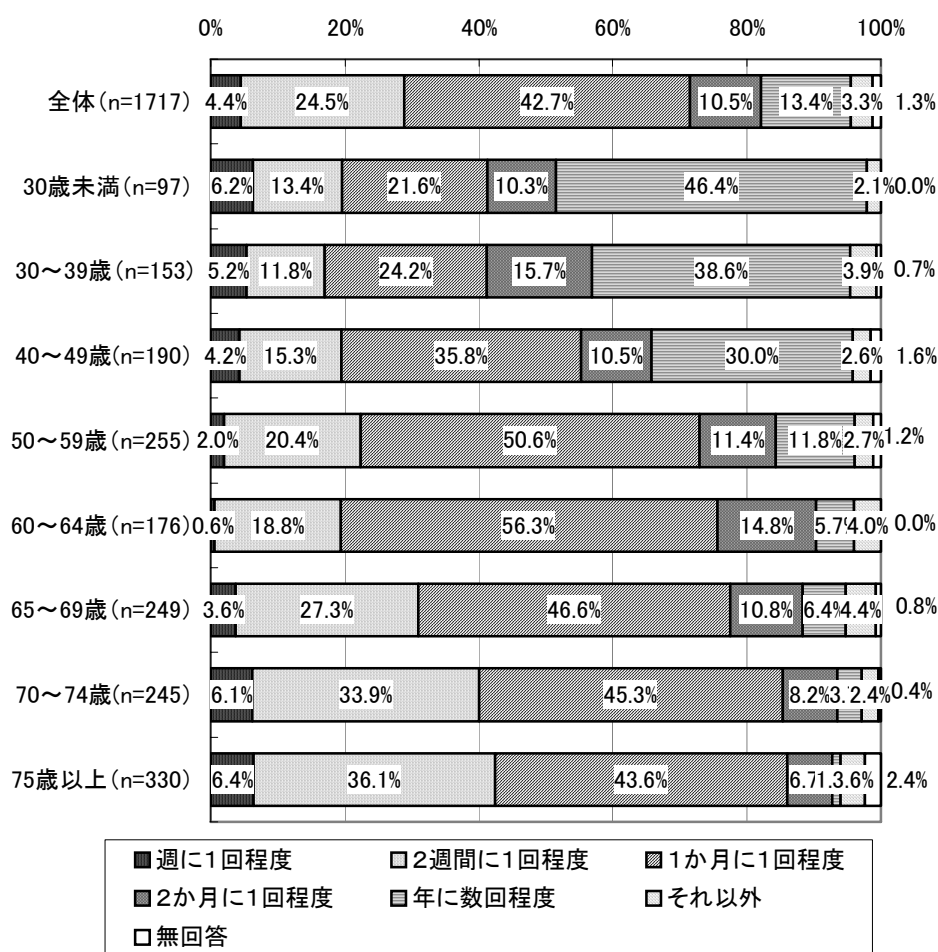
薬局への来局頻度についてみると、全体では「1か月に1回程度」(42.7%)が最も多く、次いで「2週間に1回程度」(24.5%)、「年に数回程度」(13.4%)であった。男性と比べて、女性では「年に数回程度」という回答割合が8.3ポイント高かった。

図表 98 薬局への来局頻度 (男女別)



薬局への来局頻度について年齢階層別にみると、40歳以上ではどの年齢階層においても「1か月に1回程度」が最も多かった。また、65歳以上では「2週間に1回程度」の回答割合も高くなる傾向がみられた。「週に1回程度」、「2週間に1回程度」及び「1か月に1回程度」を合わせた割合は、「65～69歳」では77.5%、「70～74歳」では85.3%、「75歳以上」では86.1%となった。

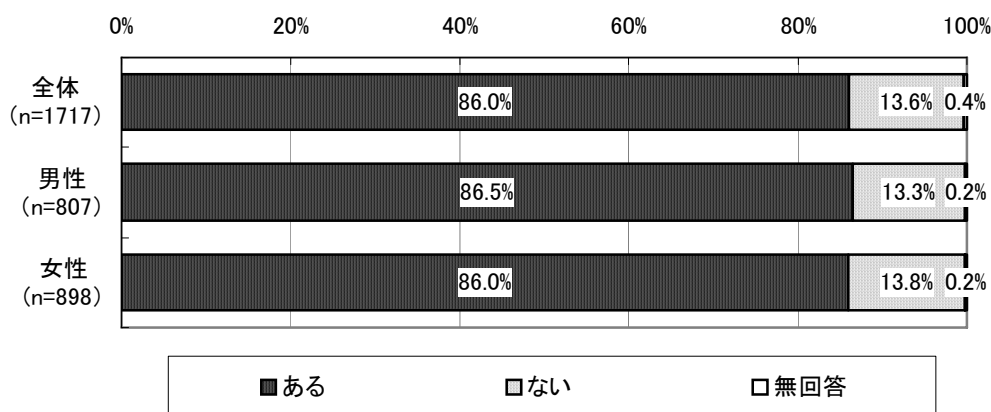
図表 99 薬局への来局頻度（年齢階層別）



5) かかりつけ薬局の有無

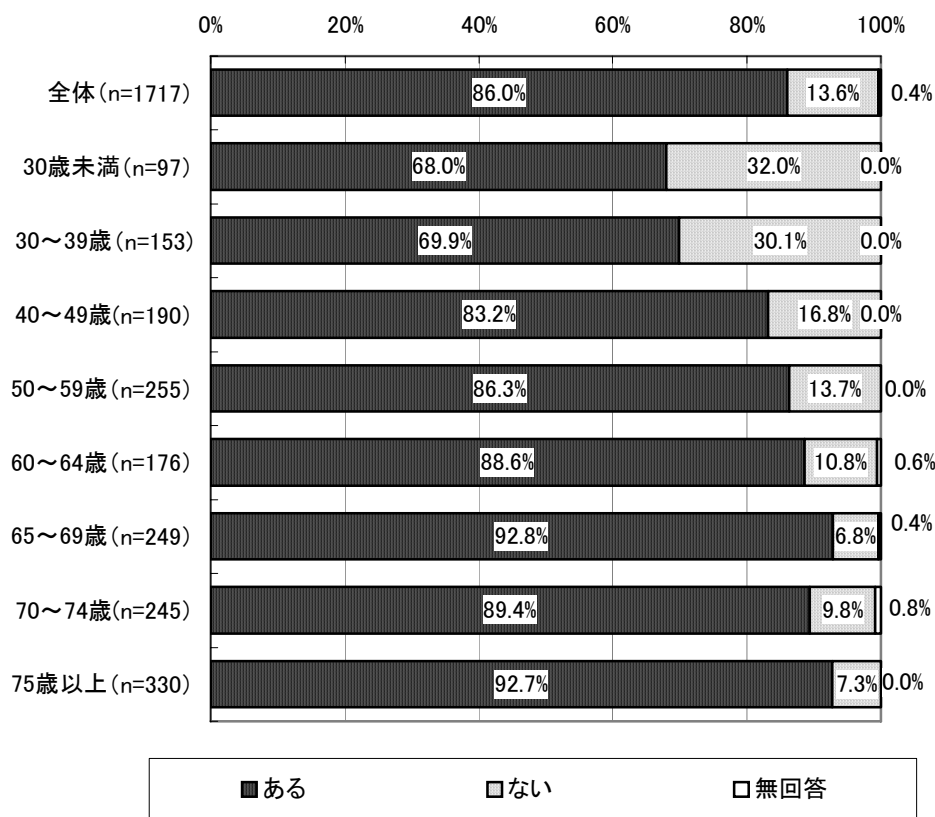
かかりつけ薬局の有無について男女別にみると、男女ともに「ある」という回答が 9 割近くとなった。

図表 100 かかりつけ薬局の有無（男女別）



かかりつけ薬局の有無について年齢階層別にみると、40 歳未満では「ある」という回答は 7 割に達していないが、40 歳以上の各年齢層においては、「ある」という回答が 8 割を超えた。特に「65～69 歳」と「75 歳以上」では、「ある」という回答は、それぞれ 92.8%、92.7%と 9 割を超える結果となった。

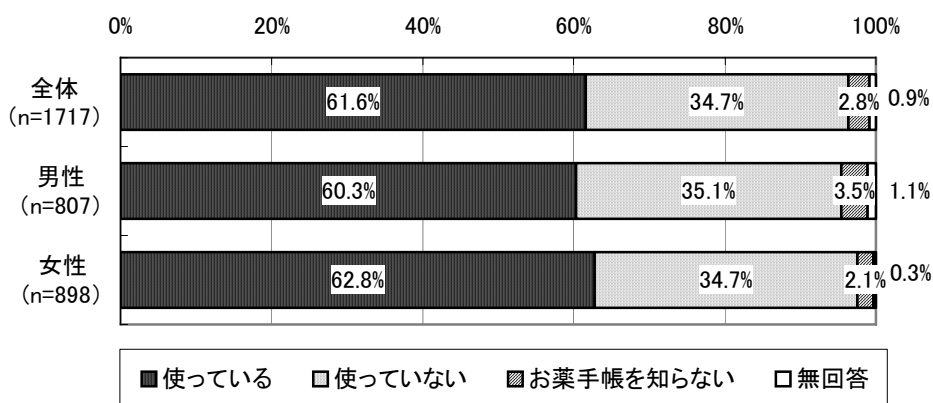
図表 101 かかりつけ薬局の有無（年齢階層別）



6) お薬手帳の使用状況

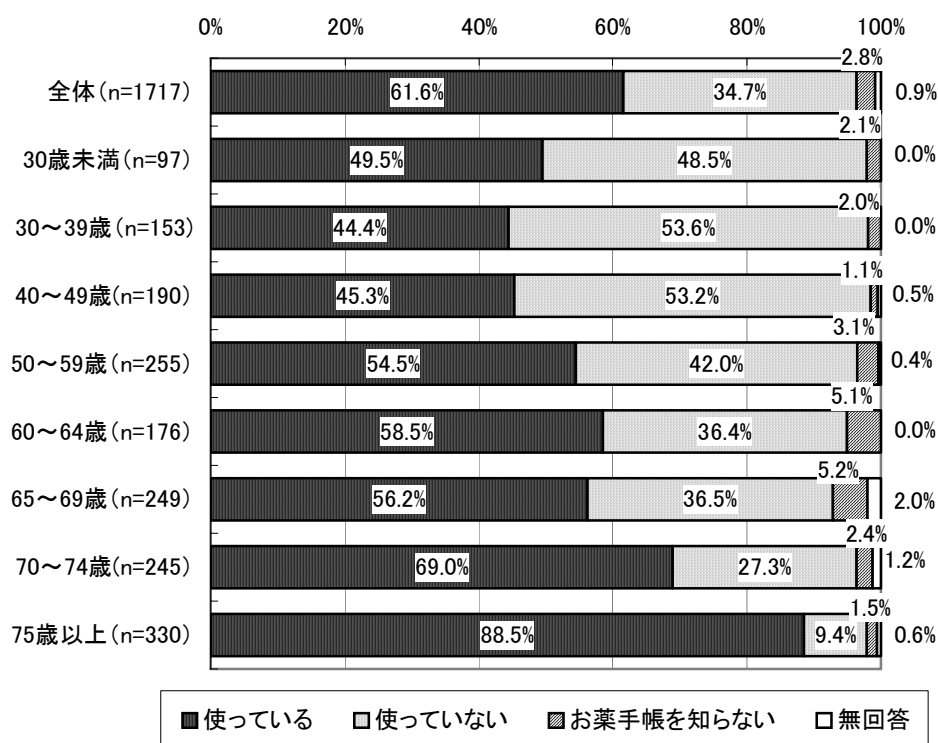
お薬手帳の使用状況について男女別にみると、男女ともに「使っている」という回答がおよそ6割を占めた。

図表 102 お薬手帳の使用状況（男女別）



お薬手帳の使用状況について年齢階層別にみると、50歳以上の各年齢層においては、「使っている」という回答が5割を超えており、年齢が高くなるにしたがってお薬手帳を使用する割合が高くなる傾向がみられた。特に75歳以上ではお薬手帳を「使っている」という割合が88.5%となっており、すべての年齢層の中で最も高い割合となった。

図表 103 お薬手帳の使用状況（年齢階層別）



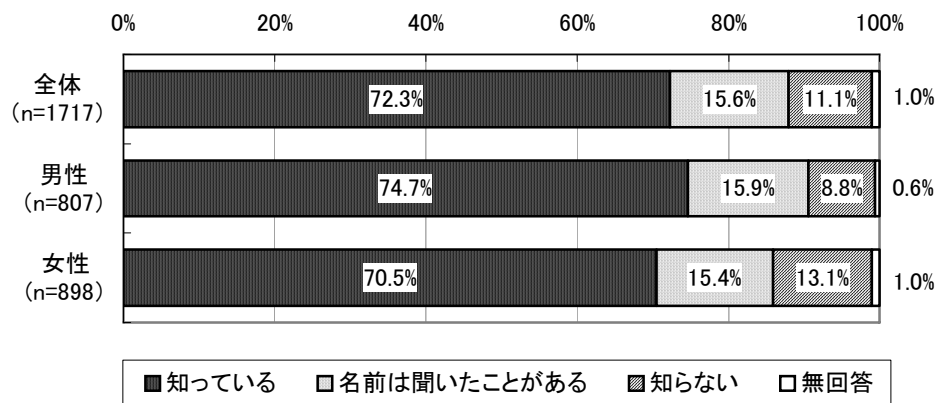
②後発医薬品の使用状況

1) 後発医薬品の認知度

後発医薬品の認知状況についてみると、全体では、「知っている」が 72.3%、「名前は聞いたことがある」が 15.6%、「知らない」が 11.1%であった。

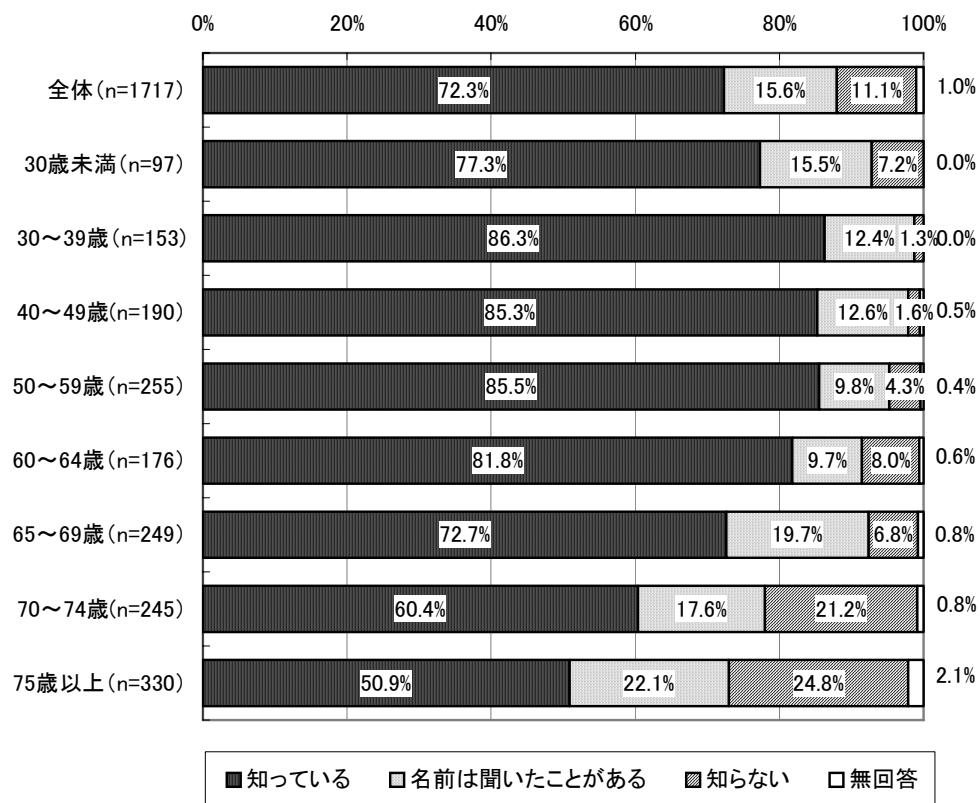
後発医薬品の認知状況について男女別にみると、後発医薬品を「知っている」という回答は、男性では 74.7%、女性では 70.5%となり、男性の方が女性よりも 4.2 ポイント高い結果となった。

図表 104 後発医薬品の認知状況（男女別）



後発医薬品の認知状況について年齢階層別にみると、年齢が高くなるにしたがって認知度が低くなる傾向がみられた。75歳以上では、後発医薬品を「知らない」という回答が24.8%と、4人に1人が後発医薬品を「知らない」という結果となった。

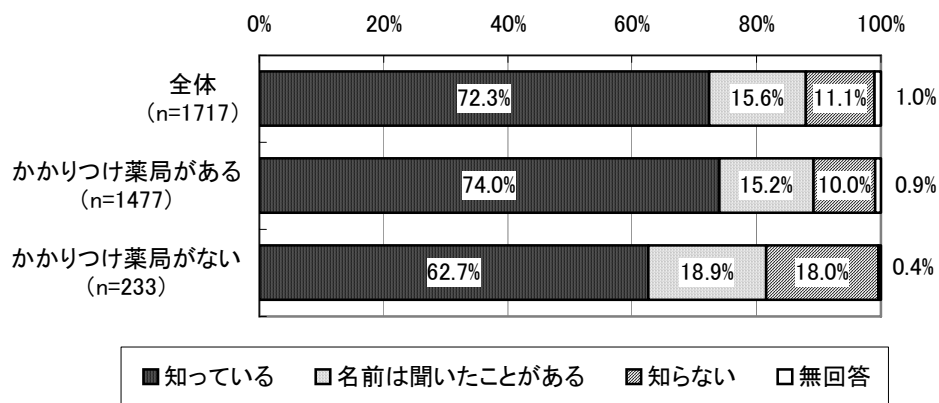
図表 105 後発医薬品の認知状況（年齢階層別）



後発医薬品の認知状況についてかかりつけ薬局の有無別にみると、後発医薬品を「知っている」という回答は、「かかりつけ薬局がある」患者では 74.0%、「かかりつけ薬局がない」患者では 62.7%となり、11.3 ポイントの格差があった。

一方、後発医薬品を「知らない」という回答割合をみると、「かかりつけ薬局がある」患者では 10.0%となったが、「かかりつけ薬局がない」患者では 18.0%と「かかりつけ薬局がある」患者と比較して 8 ポイント高い結果となった。

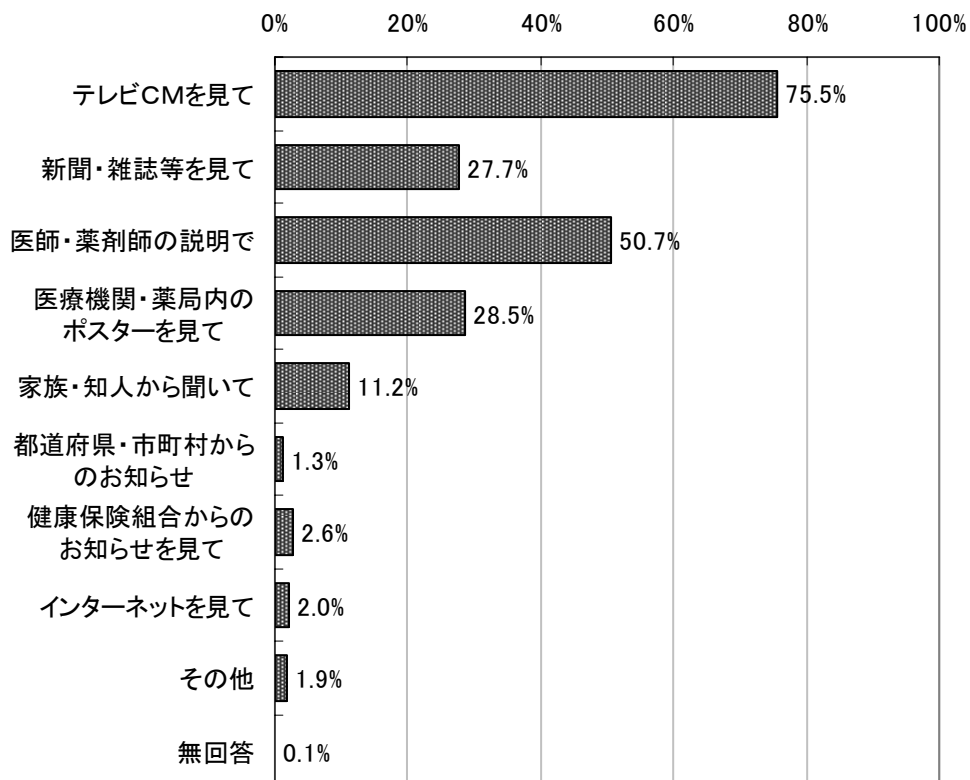
図表 106 後発医薬品の認知状況（かかりつけ薬局の有無別）



2) 後発医薬品の認知方法

後発医薬品の認知方法について、後発医薬品を知っている人にたずねたところ、「テレビCMを見て」(75.5%)が最も多く、次いで「医師・薬剤師の説明で」(50.7%)、「医療機関・薬局内のポスターを見て」(28.5%)、「新聞・雑誌等を見て」(27.7%)の順となった。

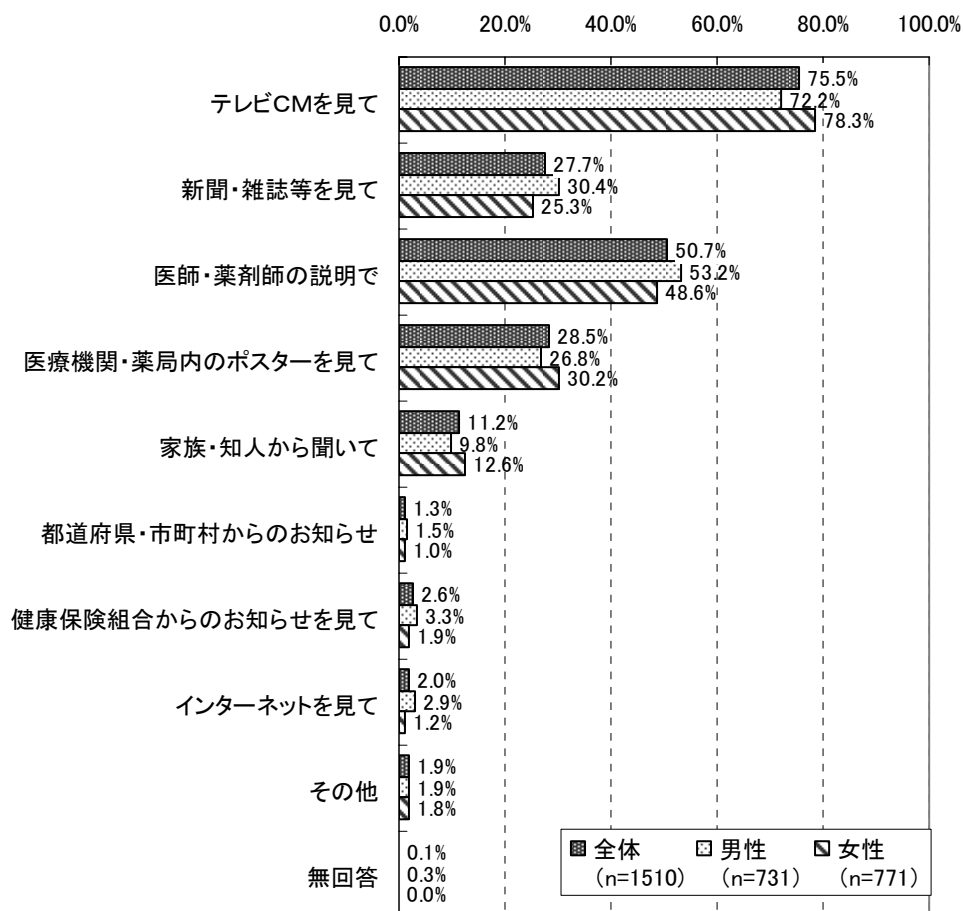
図表 107 後発医薬品の認知方法（後発医薬品を知っている人、n=1510）



後発医薬品の認知方法について男女別にみると、女性と比較して男性での回答割合が相対的に高かったのは、「新聞・雑誌等を見て」（男性が女性より 5.1 ポイント高い）、「医師・薬剤師の説明で」（男性が女性より 4.6 ポイント高い）であった。

一方、男性と比較して女性での回答割合が相対的に高かったのは、「テレビCMを見て」（女性が男性より 6.1 ポイント高い）、「医療機関・薬局内のポスターを見て」（女性が男性より 3.4 ポイント高い）、「家族・知人から聞いて」（女性が男性より 2.8 ポイント高い）であった。

図表 108 後発医薬品の認知方法（後発医薬品を知っている人、男女別、n=1510）



後発医薬品の認知方法について年齢階層別にみると、「テレビCMを見て」という回答割合がどの年齢層においても最も高かったが、65歳以上ではその割合が他の年齢層と比較して低くなる傾向がみられた。75歳以上では、「テレビCMを見て」が最も高いという点では他の年齢層と同じであるが、「医師・薬剤師の説明で」という回答割合が52.7%と高い結果となった。

図表 109 後発医薬品の認知方法（後発医薬品を知っている人、年齢階層別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

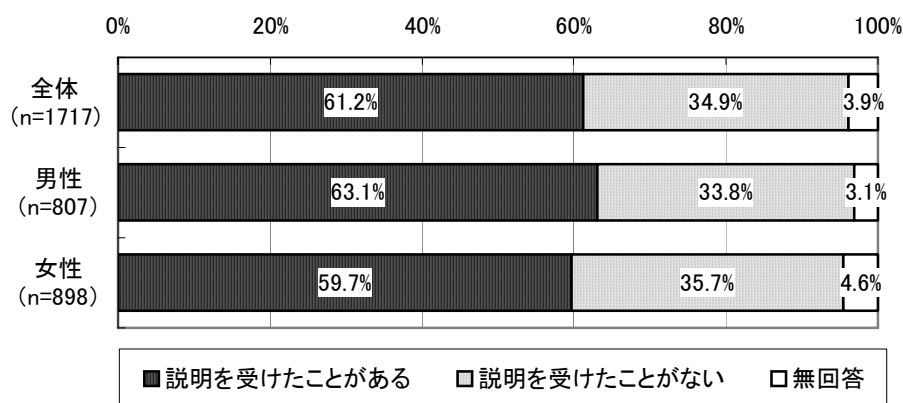
	総数	後発医薬品の認知方法									
		テレビCMを見て	新聞・雑誌等を見て	医師・薬剤師の説明で	医療機関・薬局内のポスターを見て	家族・知人から聞いて	都道府県・市町村からのお知らせ	健康保険組合からのお知らせを見て	インターネットを見て	その他	無回答
全体	1510 100.0	1140 75.5	418 27.7	766 50.7	430 28.5	169 11.2	19 1.3	39 2.6	30 2.0	28 1.9	2 0.1
30歳未満	90 100.0	64 71.1	14 15.6	42 46.7	25 27.8	14 15.6	0 0.0	0 0.0	2 2.2	5 5.6	0 0.0
30～39歳	151 100.0	126 83.4	37 24.5	69 45.7	49 32.5	9 6.0	2 1.3	3 2.0	9 6.0	6 4.0	0 0.0
40～49歳	186 100.0	154 82.8	66 35.5	106 57.0	60 32.3	12 6.5	4 2.2	7 3.8	9 4.8	5 2.7	0 0.0
50～59歳	243 100.0	206 84.8	86 35.4	112 46.1	80 32.9	35 14.4	7 2.9	12 4.9	1 0.4	5 2.1	0 0.0
60～64歳	161 100.0	119 73.9	44 27.3	86 53.4	45 28.0	20 12.4	0 0.0	4 2.5	1 0.6	1 0.6	0 0.0
65～69歳	230 100.0	174 75.7	56 24.3	122 53.0	68 29.6	25 10.9	1 0.4	3 1.3	5 2.2	1 0.4	0 0.0
70～74歳	191 100.0	136 71.2	59 30.9	96 50.3	52 27.2	24 12.6	0 0.0	5 2.6	1 0.5	3 1.6	0 0.0
75歳以上	241 100.0	147 61.0	54 22.4	127 52.7	49 20.3	30 12.4	5 2.1	4 1.7	1 0.4	2 0.8	2 0.8

3) 医師や薬剤師からの後発医薬品の説明の有無

医師や薬剤師からの後発医薬品の説明の有無について男女別にみると、全体では「説明を受けたことがある」が 61.2%、「説明を受けたことがない」が 34.9%であった。

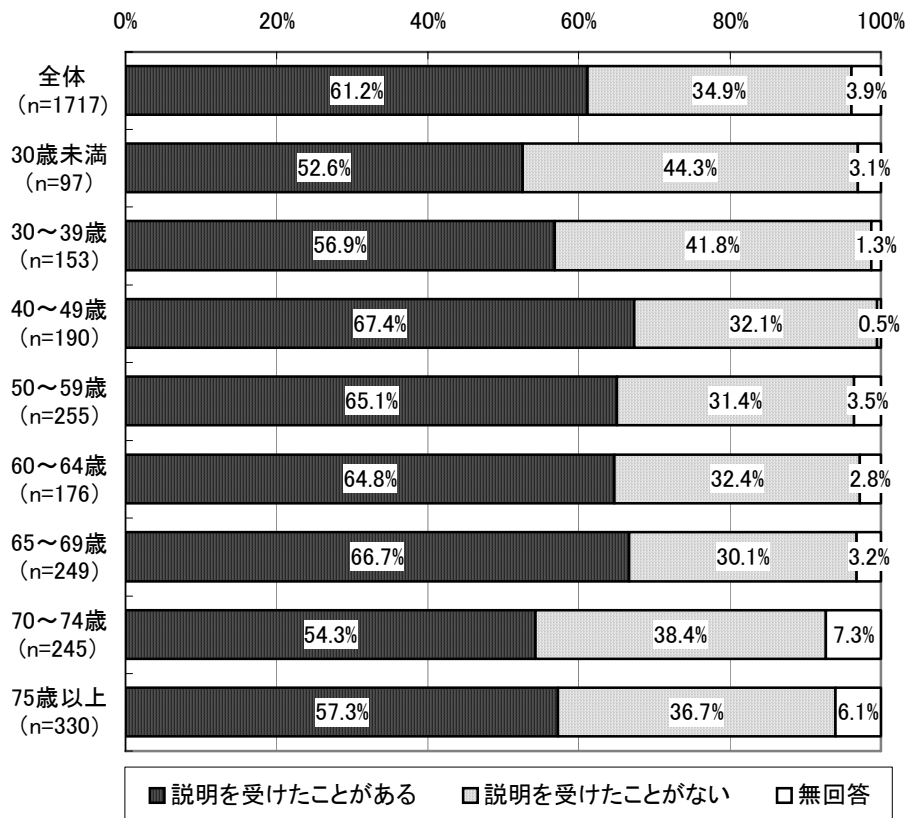
男女別にみると、女性は男性と比べて、「説明を受けたことがある」が 3.4 ポイント低かった。

図表 110 医師や薬剤師からの後発医薬品の説明の有無（男女別）



医師や薬剤師からの後発医薬品の説明の有無について年齢階層別にみると、40歳以上70歳未満では「説明を受けたことがある」が65%前後であるのに対し、40歳未満と70歳以上の各年齢層ではいずれも60%未満とやや低い数値となった。

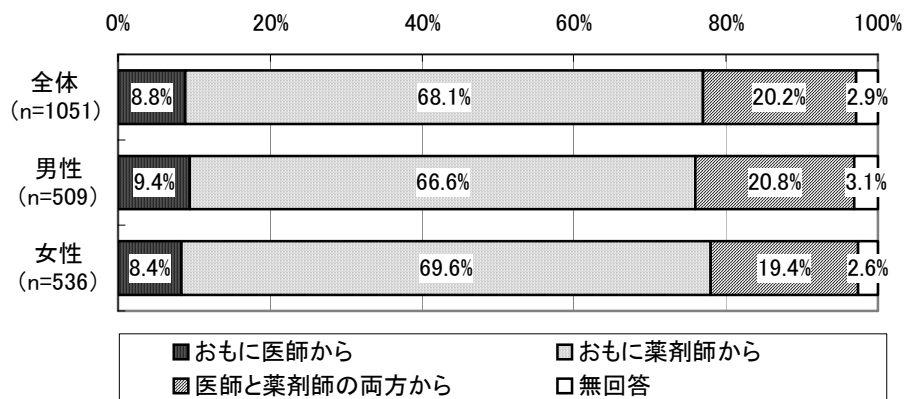
図表 111 医師や薬剤師からの後発医薬品の説明の有無（年齢階層別）



4) 後発医薬品の主な説明者

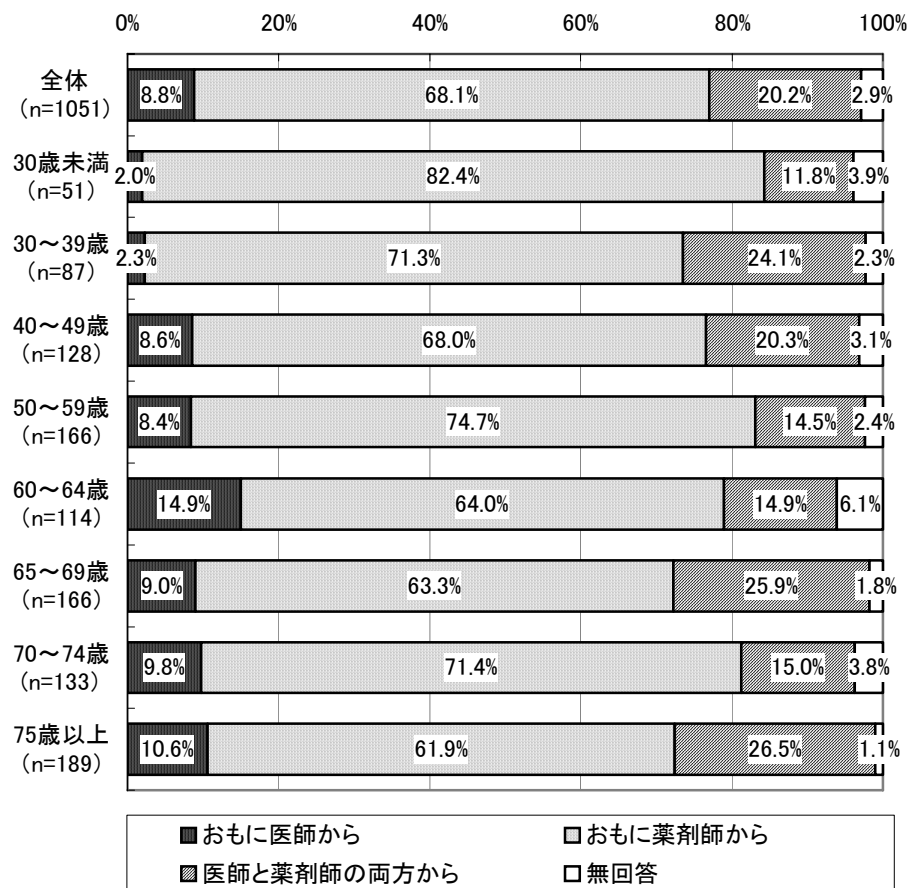
後発医薬品の主な説明者についてみると、「主に薬剤師から」が 68.1%で最も多かった。次いで、「医師と薬剤師の両方から」が 20.2%、「主に医師から」が 8.8%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

図表 112 主な説明者（説明を受けたことがある人、男女別）



後発医薬品の主な説明者について年齢階層別にみると、どの年齢層においても「おもに薬剤師から」が6割を超え、最も多かった。「30～39歳」、「65～69歳」、「75歳以上」では、「医師と薬剤師の両方から」が「全体」や他の年齢層と比較して相対的に高い結果となった。

図表 113 主な説明者（説明を受けたことがある人、年齢階層別）



5) 後発医薬品についての説明内容の理解度

後発医薬品についての説明内容の理解度についてみると、「理解できた」が84.0%、「あまり理解できなかった」が9.5%、「まったく理解できなかった」が0.6%であった。男女別にみても、大きな差異はみられなかった。

図表 114 説明された内容の理解度（説明を受けたことがある人、男女別）

